

# 政策分析シート

<b>政策名</b>	安心と生きがいを実感できる高齢社会の形成	<b>政策No</b>	09	<b>部名</b>	福祉部	
<b>関連部名</b>						
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	健康・福祉・子育て				
<b>目的</b>	高齢者が健康でいきいきとした高齢期を送ることができるように介護予防を推進するとともに、介護を要する高齢者が、住み慣れた地域で安心して住み続けることができるような支援を充実する。					
<b>指 標</b>	<b>政策の成果とする指標名</b>	<b>指標の推移</b>				<b>指標に関する説明</b>
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (28年度)	
	① 高齢化率	20.73%	20.99%	20.99%	23.50%	65歳以上人口／人口 18年度は6月末現在、28年度は高齢者プラン27年度推計値
	② 要介護等認定者出現率	16.5%	17.1%	17.6%	17.7%	要介護認定者数／65歳以上人口
	③ 介護予防体操参加者数	1,397	1,538	1,700	2,100	荒川ころばん体操・荒川せらばん体操参加実人数
	④ 特養ホーム入所希望者のうち要介護4・5の在宅待機者	145	186	183	-	18年度は5月末現在
⑤ シルバー人材センター就業実人数	909	1,063	1,160	1,440		
<b>現状と課題</b>	<p>○平成17年11月に実施した荒川区高齢者生活状況調査では、現在生きがいを感じていることとしては、「働くこと（自営・家事等を含む）」（35.7%）と「ご近所や友達とのつきあい」（34.7%）が特に多くなっている。</p> <p>また「学習や教養を高めること・趣味の活動」（26.4%）も多くなっている。</p> <p>○高齢者の介護を社会全体で支える新しいしくみとして、平成12年4月にスタートした介護保険制度が改正され、平成18年4月から施行された。今回の制度改正の位置づけの一つとして、「予防重視型システムへの転換」が謳われており、介護予防への取組が重要となってきている。</p> <p>○ひとり暮らし高齢者届出数は2千人を超え、また高齢者のみ世帯が増加していることなどから、今まで以上に高齢者が住み慣れたまちで安心して生活できることが重要となってきている。</p> <p>○特別養護老人ホームの入所希望者（待機者）は661人である。そのうち、要介護4・5で在宅待機者は183人となっている。</p>					
<b>今後の方向性</b>	<p>○高齢者の日常生活動作の低下を未然に防止し、生活機能を維持・向上させるための介護予防の推進を図っていく。今年度は介護予防懇談会を設置し、荒川区の介護予防の課題や新たに取り組む介護予防施策などについて検討する。また、より多くの高齢者に介護予防の取組を広く普及するため、「4万人の筋力アップ大作戦事業」として、介護予防シンポジウムや転倒予防サミット等を実施する。</p> <p>○自主組織で、レクリエーション、スポーツ、交流事業、奉仕活動、環境美化活動などさまざまな活動を行っている高年者クラブに支援していく。また、区が行っている介護予防事業や健康づくり事業への参加を勧奨していく。</p> <p>○さまざまなハンディキャップを持つ高齢者にとって、緊急時や災害時の安全確保のみならず、地域の中での日常的な支え合いや見守りの仕組みづくりに取り組んでいく。</p> <p>○特別養護老人ホームの入所待機者解消に向けて検討をすすめていく。</p>					

## 政策を構成する施策の優先度

施策名	政策推進のための優先度	優先度についての説明・意見等
高齢者の社会参加の促進	B	高齢者が生きがいを実感できるよう、社会参加の促進を図っていく必要がある。
介護予防の推進	A	高齢者の増加に伴い、介護予防の取組が重要である。
高齢者施設の運営支援	B	特別養護老人ホームの入所待機者解消に向けて検討をすすめていく必要がある。
高齢者の在宅生活の支援	B	在宅介護を支援していくため引き続き取り組んでいく必要がある。
介護保険サービスの基盤整備	C	介護保険事業計画に沿って適正に事業を実施していく必要がある。